

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>住みなれた地域で、ゆったりと穏やかに、その人らしく暮らしていきけることを支える為、柔軟な生活支援を行っていくことを理念の柱としている。</p>	<p>○</p> <p>地域にホームの役割や課題を、今後も発信していきたい。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員採用時や定例会議において、理念について話し合い、理解してもらう様にしている。具体的なケアについての話し合いの場では、意見の統一を行いケアに活かしている。</p>	<p>職員の目にふれる場所に、理念を掲げ、共有し、意識付けするようにしている。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム内の目にふれやすい場所に理念を掲げ、来訪者には都度説明している。また、外部へはパンフレットやホーム便りでお伝えしている。</p>	<p>ホーム便りや、広報紙の発行を活用して、理念や役割を伝えている。推進委員会や協力員様への説明や、地域の集まり等でホームの実践を伝えている。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>日常的に散歩や買物に出かけ、近隣の方との挨拶や話を交わしたりしている。行事等のお誘いをして交流したり、関係を深める様に取り組んでいる。近くの「荒神さん」へのお参りは日課となっている。</p>	<p>子供の日集い、夏まつり、クリスマス等の行事やボランティアさんの受け入れ、地域合同の防災訓練実施、「荒神さん」の掃除等を通じ、近隣の方とのふれあいの機会は多い。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>特別会員として、地域の一員として地元の人々との交流をしている。行事を通じて、近隣の方や子供たちが遊びに来たり、また地域活動への参加もさせて頂いている。</p>	<p>利用者の外出や散歩中には、地域の方々からの声かけを頂いたり、地元中学生との交流もある。今後も地域とのおつきあいを深めていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	人材育成の実習や研修の受け入れを行っている。地域の方からの相談に応じたり、介護保険サービスの説明を行っている。行事等を通じて、認知症ケアの方法や接し方についてお話ししている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を周知し、全職員で自己評価に取り組んでいる。評価提案は公表し、職員や家族様には報告を行っている。改善事項には、具体的な検討を行っている。	○	サービスの質の向上に努める様にしたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会では参加者より率直な意見を頂き、サービスの向上に向けて活かしている。事業所からの報告と同時に、質問や意見・要望等、熱心な取り組みを行って頂いている。	○	今後も継続したい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃より市担当者への情報提供を行い、問題解決のためのアドバイスを頂いている。近隣の高齢者の問題を、包括支援を通じ支援している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	権利擁護や、成年後見制度の必要があるケースは、関係者と相談しながら進めている。また、研修に参加する様にしている。		勉強会を行い、職員の知識を深めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に対し、虐待防止を徹底している。ケアにおける虐待防止について、随時話し合いの場を持ったり、具体的な例をあげ検討している。		勉強会やミーティングにおいて、理解や取り組みについて今後も検討を行い、周知の継続を図りたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書や重要項目説明書を十分説明し、それに付随すること等を具体的にお話している。サービス開始中にも疑問や不安には、随時丁寧な説明を行っている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の向きを大切に、思いを察する配慮を心がけ、全職員に利用者の意見や不安を伝えケアに活かしている。利用者には運営推進会議に参加してもらい意見や感想を述べて頂いている。行事やイベントは、日々の生活において利用者様の発案や提案を中心に計画している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族様の面会時に御本人の様子を伝えたり、家族様からの御質問にお答えしている。また、毎月のホーム便りや広報紙の発行をしている。状況変化等には、主に電話にて随時連絡している。	ケアプランに㊦を頂いているが、ケース記録も見てもらい、都度サインを頂く様にしたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	便りや来所時を通じて、家族様が何でも言って頂ける様に配慮している。また、ホーム側からも積極的に意見を伺う様に努力している。	今後も継続したい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員の意見や要望を聞く様に心がけている。意見は会議等に提案し、全員で検討する様にしている。	今後も継続したい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務シフトは、職員との馴染みの関係が継続できるように作成工夫している。管理者は、夜間や利用者の状況に応じた対応が柔軟にできる体制となっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむおえない職員の異動には、利用者きちんと説明し、全職員で利用者への配慮を行っている。新職員の場合には特に紹介の会を行い、お互いが理解しあえるように取り組んでいる。	○

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事前に参加希望をとり、ホーム内外での研修・講習に参加できる様にしている。終了後は報告会を行い、学んだことの共有を全職員で行っている。</p>	○	パート職員も研修参加している。ケア会議や職員会も全職員で行っている。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡会や協議会の場に参加し、情報の交換や交流をしている。</p>	○	防災について、施設間の連携を高める為、連絡会に参加している。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の休憩時間や場所の確保を行っている。業務に関する疲労やストレスには耳を傾け、助言等のアドバイスを行っている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>職員の資格取得に向けて、研修・講習会への参加を促している。向上心を育てる為、自分自身をふり返り評価を行う様努めている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所前にはできる限り、訪問・見学を御本人様にもして頂いている。茶話会を通じて、不安を最小限にしていける様に努力している。来所時や相談時に傾聴している。</p>	○	今後も継続したい。
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入所時には、家族様の思いや希望・願いをゆっくり聞く様にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、他のサービスも含めた検討をしたりアドバイスをを行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所に至るまでに、御本人や御家族には必ず来所して頂き、見学や話合い・相談・説明を行っている。	○	今後も継続したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者は人生の先輩であるという考えを共有しており、利用者に教えてもらう場面を多く持つよう声がけ等に配慮している。また、利用者は新聞の取込みやカレンダーの日めくり、食事の準備や洗濯物の始末等、積極的に役割を果たしたり、職員をねぎらってお茶を点てたりする等、お互いが協働しながら和やかな生活ができている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	管理者を中心に職員は御家族の意向を聞き、思いに寄り添いながら支援している。また、日々の暮らしの出来事や気づき等をこまめに報告し、情報の共有に務めている。	○	今後も継続したい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	御家族と利用者の状況を見極めながら、利用者の思いを御家族に伝えたり、御家族との外出・外泊を勧めている。また、行事に御家族を招待することで、気軽に来訪できるよう雰囲気作りを心がけ、よりよい関係の継続に努めている。	○	今後も継続したい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	思い出の場所へドライブしたり、お墓参りに行ったりすることで、利用者との馴染みの人や場との関係が切れないよう支援している。	○	今後も継続していき、さらに馴染みの人との関係が継続できるよう支援を深めたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員は毎日の食事やお茶の時間等を利用者と一緒に過ごすことで、利用者同士の会話が円滑に進むよう働きかけている。また、仲の良い利用者同士誘い合って散歩に出かけたり、居室を訪問しあえるような雰囲気作りを心がけている。職員が個々のプライバシーに配慮しつつ、折にふれ状況説明をすることで理解を深め合い、支えあえる関係が築かれている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用者とともに、契約終了後の利用者のお見舞いに行ったり、管理者が契約終了後も継続して御家族からの相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者のつぶやきに耳を傾け、行動や表情から、言葉にしづらい思いを汲み取る努力をしている。また、御家族や関係者からも情報を得るようにしている。得た情報は送りノートや介護日誌に記録し、職員が共有している。	○	今後も継続し、些細なことも見逃さないよう気をつけていく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に自宅へ訪問したり、利用者本人や御家族、関係者から生活歴や馴染みの暮らし方について聞き取りを行っている。利用後も利用者本人の言葉や、御家族、知人の来訪時などに情報収集するよう努めている。また、これまでのサービス利用については担当ケアマネージャーから情報を得ている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の関りを通じ、生活リズム(食事、睡眠、排泄、体調の変化等)を把握しており、本人のできる力、わかる力を大切にしていこう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントをはじめ意見交換やモニタリングを職員全員で行っている。また、カンファレンスには利用者本人とその御家族にも同席してもらい、介護計画の作成に活かしている。	○	今後も継続したい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間が終了する前に職員全員で見直しをし、現状に即した新たな計画書を作成している。状態が変化した際には、随時検討を行い、追加したり変更したりする部分については職員全員の周知を図っている。	○	今後も継続したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に毎日の暮らしぶりやつぶやき、エピソード等を具体的に記入している。それとは別に介護計画に沿った記録もしており、ケアの実践、結果、気づきや工夫を具体的に記入している。職員は何時でもこれらを見ることができ、情報を共有するとともに介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、本人が通院困難な時は往診してもらったり、急変時にはたとえ夜間であっても常に主治医の支持が受けられるようにしている。また、利用者や御家族の状況に応じて、通院や選挙の投票等に対応し、個々の満足を高めるよう努力している。	○	今後も利用者への柔軟な対応を継続しながら、近隣の高齢者が状況に応じて、デイサービスやショートステイ等を利用をできるように多機能性を強化したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	歌の会や健康体操の会等、ボランティアの協力を得ているが、警察や消防等周辺施設への協力呼びかけをしている。	○	御本人と地域とのさまざまな接点を見出し、周辺施設への働きかけやボランティア協力の呼びかけを強化したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	御本人の要望や必要性に応じて、地域美容院の訪問理美容サービスや近隣歯科医の訪問診療を受けたり、主治医（内科医）の定期的な往診を受けている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加している。	○	今後は周辺情報や支援に関する情報交換等、関係を強化していきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の主治医の他、協力医療機関や利用前からの掛かりつけ医の診療を受けられるよう、御家族と協力し、通院介助等の支援している。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医による認知症に関する診断や治療が、一部の利用者にもみ対応できている。	○	職員も相談にのってもらえ、適切な指示や助言をしてもらえる専門医を地域の中で確保したい。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員がいない時間は送りノートによる指示や、介護記録、看護記録を基に、確実な連携を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時の医療機関への利用者情報の提供はもとより、御家族等と協力しながら、三者一体となって退院計画を具体的に進めていく努力をしている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期に対する対応指針を定め、マニュアルを作成している。希望された利用者に対しては、医者への話し合いを終了していた。	○	今後は利用者本人や御家族の意向を踏まえ、ケースごとに具体的に検討していきたい。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホームの主治医とともに、チームとしての支援に取り組めるよう医療連携体制をとっている。	○	今後は利用者本人や御家族の意向を踏まえ、ケースごとに具体的に検討していきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えの前に御家族には、環境の変化による御本人の受けるダメージについて十分理解を求めるとともに、新たなケア関係者には、これまでの生活環境や支援の内容について情報提供し、きめ細かい連携を心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	今後も継続したい。
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	今後も継続したい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	今後は美容の日をつくりたい。
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	今後も継続したい。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	職員は利用者のサインを把握しており、さりげなく排泄誘導をしている。尿意便意の無い利用者にも、時間を見計らってトイレに誘導することでトイレでの排泄を促しており、失敗があったときは御本人が傷つかないように、さりげなく速やかに対応している。力に合わせた下着の着用など職員全員で検討し、統一した支援を行っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には御本人の意向に沿って支援している。長期の入浴拒否がある場合、タイミングを見計らって言葉かけをしたり、御本人の行動パターンに合わせた誘導を行うなどして、気持ちよく入浴していただけるよう支援している。また季節に合わせ、菖蒲や蓬風呂、ゆず風呂などして、楽しんで入浴していただけるよう工夫している。	○	今後も継続したい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整えるなど、眠剤に頼らない睡眠の支援をしている。また、寝苦しい夜はこまめな室温調整や、ナイトココアの提供等、一人ひとりの安眠パターンにあわせた支援をしている。(入所時は眠剤服用していた利用者も、医師と相談のうえ徐々に薬を減らし現在はほとんど服用していない。)しかし、その日の体調や状況によっては日中も十分休息を取っていただいている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯干しやたたみ、食事の準備や片付けなど利用者一人ひとりの力に合わせた、お願いできそうな仕事を頼み、都度感謝の言葉を伝えている。また、行事や楽しみごとの準備は利用者も一緒に取り組むことで関心を高め、より楽しめるよう支援している。	○	今後でもできる事への促しや、工夫をしていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族の協力を得てお金を所持している利用者もあり、力に合わせた使用を支援している。また、まったく所持していない利用者にも、買い物の際お金を渡し支払いをお願いする等の工夫をしている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	職員同行で日常的に買い物やドライブに出かける機会を持っているほか、独歩の利用者はいつでも自由に一人で散歩したり、誘い合っ出て出かけたりしている。また、歩行困難な方も出来るだけ戸外の空気を感じていただけるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の声を拾い上げ、遠足、ドライブ、一泊旅行などの機会を設けて楽しんで頂いている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、利用者本人がかけたり、御家族からの電話を取り次いでいる。その際ゆっくり話ができるよう受話器を居室に移すなど配慮している。手紙については、年賀状や暑中見舞いを書かれるようお勧めしているがあまり書かれない。	○ 年賀状や暑中見舞い、御家族への行事の招待状など書いて頂けるよう支援を深めたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員はいつでも歓迎の言葉と笑顔で来訪者を迎え、湯茶などのもてなしをしている。また、面会時間の制限をせず、連絡さえあればいつでも受け入れているし、宿泊もして頂いている。	
(4)安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	布団ずり落ち防止柵や、立ち上がりのためのベツ手すりの取り付けにも、御本人や御家族の了解を得ており、運営者及び全ての職員は、どんなことがあっても拘束は行わないケアを実践している。	○ 今後も継続したい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵は取り付けていないし、玄関も夜間以外は施錠をしないケアをしている。職員は見守りの徹底や連携プレイを屈指し、利用者に自由に散歩や外出を楽しんで頂いている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はホールを中心に見守り、居室に居る利用者には状況に合わせて声がけや訪室をしている。戸外へ出ている利用者についても常に把握しており、時間を見計らって様子を見に行く等こまめなケアに努めている。夜間は時間ごとの巡視とともに、ホールの食卓で記録をするなどして、居室の気配が感じられる場所に居て常に安全に配慮している。	○ 今後も継続したい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物品の取り扱いや保管については、職員間で周知しており、洗剤や漂白剤等は必ず薄め液を使用している。夜勤者は包丁など危険物の収納を確認し記録している。利用者がはさみや針等を使用する時は、個々の状況に応じて注意を促したり一緒に片付けの確認をしたりしている。	○ 今後も継続したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	定期ケア会議で個々の状況とリスクの再確認を行うとともに、日々のヒヤリハットを記録し再発防止について検討することで、職員の認識共有を図っている。またもし、万が一事故が発生した場合は速やかに事故報告書を作成し、原因の究明と再発防止について検討し、御家族や市への報告を行うことにしている。	○ 今後も継続したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急マニュアルを作成している。また、ケア会議等で応急手当や初期対応について確認しあっている。	○	今後は定期的に訓練する等して全職員が自信を持って臨めるようにしたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月一日を防災の日と定め、利用者とともに災害や避難方法について話し合ったり、避難訓練や緊急連絡訓練を実施している。また、運営推進委員を通じて地域の協力を呼びかけたり、年二回は消防署の協力や防災協力員の支援を得て、近隣の方を交えた防災訓練を実施している。	○	緊急連絡訓練は伝達訓練のみの実施であったが、年一回程度の実地訓練を行いたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	折を見て管理者から御家族に、リスクも含めての近況報告をするとともに、抑圧感のない暮らしを大切にしている事や、取り組みについて説明し理解を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを実施し、異常があれば都度再検し様子を観察している。そのほか体調、表情、食欲など異変に気づいた時は速やかに情報を共有し対応に結び付けている。また、夜間は2時間毎に安否確認を実施し、心身変化の早期発見に努めている。特変時には、的確に状態把握をしたうえで医師や管理者に報告し指示を仰ぐこととしている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用時には一人ひとり手渡しし、誤薬の無いよう確認して日誌に記録している。下剤や利尿剤、その他頓服薬などについては、症状の変化を記録に残すとともに送りノート等で情報を共有し、服薬支援に役立てている。そして、すべての情報をおかりつけ医に報告し投薬調整に役立てている。また、服用の効能と副作用について記している。	○	薬剤の効用や副作用について学習する機会を増やし、知識を深めたい。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者それぞれの習慣に合わせた起床時の牛乳や毎朝のヨーグルト摂取のほか、食事は日常的に野菜中心としている。また、散歩や適度な運動を勧めるなどして便秘予防に役立てている。排便カレンダーでチェックを行っており、利用者によっては排泄物の形状まで記入し、状態把握や原因究明に役立てている。得られた情報は職員間で共有検討し対応している。	○	今後も、できるだけ下剤に頼らない取り組みをしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの口腔状態や力を把握しており、毎食後個々に合わせた支援を行う努力をしている。また、週に一回義歯の洗浄剤による清潔保持を実施している。	○	歯磨き指導の検討もしてみたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は利用者一人ひとりの食べる量や、水分摂取の状態を把握しており、習慣や状態に合わせてカロリーや栄養、水分を摂取できるよう工夫している。	○ 今後も継続したい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、職員間の周知を図っている。毎年、利用者・職員ともにインフルエンザの予防接種を受けたり、普段から手洗い・うがいを徹底し、持ち込まない努力をしている。	○ 今後、学習の機会を多くし職員の知識を深めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎食後の台所の掃除や衛生はじめ、使用後のふきは漂白して干す等を取り決めている。生鮮食材は都度買うようにし、消費期限を守って使用している。また野菜類は、切ってから再度流水で洗い流す等し、常に食中毒の予防を意識した取り組みを行っている。	○ 今後も継続したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は、季節の花を生けたり、利用者の作成した額を飾ったりして歓迎の心が伝わるよう配慮している。。アプローチ部分は階段とスロープを設けており、誰でも安心して出入りできるようにしてあり、庭には灌木や季節の花々を植えたり鉢植えを置いたりして、出入りする人が親しみやすさを感じられるよう配慮している。	○ 今後も継続したい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不快に感じるような大声での会話や、カチャカチャという食器の触れ合う音を立てないように配慮している。また、玄関や食堂、リビングのテーブルに季節の花を飾ったり、壁に書や絵画の額をかけたりにして居心地の良い空間となるよう配慮している。	○ 今後も継続したい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者は一人ソファでくつろいだり、気のあった者同士で食卓で話し込んだり、サンルームのベンチでお茶を飲んだり、思い思いの場所で過ごせるスペースを作っている。。	○ 今後も継続できるよう支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が自分の好みのポスターを貼ったり、タンスやテーブルの持ち込みほか、御本人の馴染みや好みに応じたカーペットやのれんを設置し、居心地良く暮らせるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間自動換気であるが、調理の匂いが充満したとき等、都度強制換気を行っている。温度調整は夏は28℃、冬は24℃を目安に調整しており、湿度に関しても湿度計を見ながら快適湿度を保つようにしている。また、加湿器等の利用もしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はバリアフリーで、すり足歩行の利用者も安心して歩けることができる。廊下は広く、シルバーカーや車椅子の使用が自由に出来る。靴の履き替え時必要に応じて使用できるよう腰掛を用意したり、トイレや浴室、廊下に手すりを設置し安全に自立した生活が送れるような環境になっている。	○	今後、利用者の様態変化に合わせて、さらに工夫していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	職員はチェックシートや日々の情報交換で、利用者一人ひとりのわかる力を把握しており、状況にあわせ工夫を凝らして環境整備に努めている。	○	今後、利用者の様態変化に合わせて、さらに工夫していきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者はベランダで物干しをしたり、冬場はサンルームとして日光浴の場として利用したりしている。裏庭の畑では季節の野菜を栽培しており、食卓に上るのを楽しんでいる。また、プランターで花を栽培し楽しんでおられたり、玄関前のベンチで気分転換や、おしゃべりを楽しんでおられる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

安心と尊厳のある暮らしをモットーに御利用者様のペースに合わせ、ゆっくりと穏やかにその人らしく生活して頂けるよう支援しています。また、認知症の緩和と体力維持のために生活そのものがリハビリになると考え、御利用者様に出来ることは出来るだけお願いし、取り組んでもらえるよう支援しています。職員は、常に感謝や称賛の言葉を伝え協働できる環境づくりを心がけており、散歩や買い物等自由に出かけて頂いたり、一人ひとりの思いやその日の様態に合わせた個別対応を大切にしながらも、御利用者様同士が共同生活を楽しみ、生き生きと生活できるよう支援しています。御利用者様の楽しみとなっている趣味的活動の中で、習字の会・歌の会・ADL体操をボランティアの方と継続して行い、交流も深めています。また、近隣の方からお茶に招待されたり、散歩中に声をかけて頂いたりして、地域の方との交流も深まっています。